

地域公共交通網形成計画における評価指標と目標値について

地域公共交通網形成計画で設定した目標（利用者にとってわかりやすく使いやすい、持続可能な公共交通体系の構築）の達成状況を確認するため、評価指標及び目標値を設定する。

区分	評価の視点	指標名	指標の説明	算定方法及び現況値	平成 32 年度の目標値（案）及び設定の考え方	備考
利用者	利用者にとってわかりやすく使いやすい公共交通サービスとなっているか	①公共交通機関の利用のしやすさに満足している市民の割合	本計画に基づく取組により、利用者の公共交通に対する満足度がどれだけ向上しているかを評価	市民意識調査（広島市）における「あなたは、電車やバスなど公共交通機関の利用のしやすさについて、満足していますか。」に「満足している」、「まあ満足している」と回答した人の割合	定量的な目標値の設定が困難であることから、毎年、前年を上回る満足度を目指すこととする。	
				64.6%（平成 26 年）	増加	
		②1日あたりの公共交通機関の利用者数	どれだけの市民が公共交通を使っているかを評価	公共交通機関の日利用者数	各モードの目標値又はトレンドを参考に、平成 32 年度時点の目標利用者数を推計	
				56.8 万人/日 ※公共交通利用者数は平成 25 年	59.6 万人/日	
		③公共交通利用可能圏におけるカバー率	市内に暮らす人々が、公共交通により外出することができる環境にあるかを評価	公共交通利用可能圏内の居住人口/広島市居住人口	現在、公共交通利用可能圏外に住んでいる市民の 3 分の 1 を、公共交通の利用が可能にする。	15 年後に 100%を目指すこととする
				89.7%（1,067,471 人/1,190,629 人） ※いずれも平成 27 年	93.1%	
事業者	将来にわたって安定的な運行を確保できるか	④公共交通事業の収支率	公共交通事業の収支状況により、公共交通サービスの持続可能性を評価	営業収益/営業費用 アストラムライン：鉄軌道事業 路面電車・広電宮島線：鉄軌道事業 バス：全事業者の乗合事業の合計 ※中国地方バス要覧より算出	現在黒字の事業については、赤字にならないようにし、現在赤字の事業については、その赤字が改善方向へ向かうようにする。	
				アストラムライン：112.1%(平成 26 年度) 路面電車・広電宮島線：99.2% バス：95.5%	黒字の維持、若しくは赤字の改善	
行政	集約型都市構造の実現に向けた取組となっているか	③公共交通利用可能圏におけるカバー率【再掲】	市内に暮らす人々が、公共交通により外出することができる環境にあるかを評価	公共交通利用可能圏内の居住人口/広島市居住人口 89.7%（1,067,471 人/1,190,629 人） ※いずれも平成 27 年	現在、公共交通利用可能圏外に住んでいる市民の 3 分の 1 を、公共交通の利用が可能にする。	15 年後に 100%を目指すこととする
	公共交通に対して、効率的・効果的な行政支援となっているか	⑤バス路線補助効率	本市のバス路線に対する補助が効率的となっているかを評価	補助対象系統の利用者数/本市のバス路線補助金額 ※乗合タクシーを含む ※系統が市域内で完結する市単独補助系統のみ	単位金額あたりで支援できている人数を増加させ、補助の効率性を向上させる。	
				3.9 人/千円	増加	